

ほつ。とエピソード vol.8



～ある職場の、本当の話～

2009年より活動を続け、4年目を迎えるチーム息吹(いぶき)。福島県南会津の小中高生の子どもたちが、地元に残る義民の歴史を、舞を交えながら演じる「現代版組踊」息吹。南山義民喜四郎伝」を全国各地で上演、高い評価を得ています。あくまで舞台は目的ではなく手段という代表の下村一裕さんから、息吹に込められた想いをうかがいました。

前編・後編の二本立てなので、次号もお楽しみに！

下村さんがチーム息吹を結成したきっかけは、福島県南会津の観光振興について思い悩む中で、地域に生きる人達が地元を誇りを持っていないと感じることが多いということ。

観光をはじめとした地域活性化には、まずは自分たちが住む街を愛し、誇りに思えることが大切ではないかと考えるようになったそんな時、沖繩で平田大一さんと出会い、地域の伝統文化を取り入れ子どもたちと共に創りあげる新しい形の舞台「現代版組踊」の活動に、下村さんは深い感銘をうけました。

現代版組踊では、子どもが地域

活性化の一員として自覚と責任を持ち、感動のパフォーマンスをしています。なおかつその題材が、地元の歴史と文化を体感できるものでした。「子どもたちはとても素直に自分たちの地域を見つめることが出来て、大人たちが掛ける言葉次第で、地域の事がとても好きになったり逆に嫌いになったりするんです」

下村さんは、この取り組みが地域に誇りを持った人材の育成につながるかと平田さんの活動を参考に福島県南会津にて活動をスタートします。

息吹において、舞台はあくまで目的ではなく手段。目的は子どもたちの成長、それに伴う地域、日本の振興です。

子どもたちが、社会に出て困難にぶつかったときに、自分でどうしたら良いのかを考える力、その困難を乗り越える力もつけてもらおうと考えています。そのため息吹では舞台作りを通して小さな成功体験を積み重ねることが出来るプログラムを組んでいます。

例えば約束を守り時間を大切にすることについて。六時から稽古が始まるというのに、三十分遅れて来る子どもがいる。この時に「六時に来なさい」と叱るのは簡単です。

しかしそうではなく、息吹では六時から六時半の間を一番楽しくしようと考えます。子どもたちは、その三十分が楽しいことを学び、早く来た人は得をするというような成功体験をします。ただ叱られたからでは、やらされた感覚になってしまう。そうではなく、自分たちに良いことがあるということを感じてわかち、自然にできるように導きます。

その体験は、子どもたちの間で広まっています。今、子どもたちの間では一生懸命がかっこいいという想いが定着しているといえます。物の片付け、準備でも、走って我れ先にと上の年齢の子どもたちがやる。そうすると下の子どもたちもそれを真似ていく。「やらされている」感覚ではこうはいきません。

チームに大人が押しつけるルールを設けていないことも特徴的です。大人は子どもたちの活動をルールで縛りがちですが、息吹では自分で気づくことを重視しています。稽古はもちろん、舞台に参加するかも自由参加で、会費も一切なし。だから、次の公演に果たして全員が来るのかもわからないシステムです。しかし、それが4年間も続いている。信頼だけで成り立つ新しいコミュニティが作

福島で芽吹く次世代の息吹公演

福島県文化センター 大ホール
3/26 【昼の部 13:30 ~ 夜の部 19:00 ~】



<http://www.minamiaizu.jp/ibuki.html>

られています。
この信頼関係は、大人の生きる姿勢から生まれています。
「大人も常にチャレンジをしています。『やると言ったらやる』ということも大人の背中で語るんです。」

次号 後編に続く

採用と教育

(社員教育・経営支援事業)

代表 半田 真仁



広島県出身。商事会社に在職中、日本キャリア開発協会認定のキャリアカウンセラー試験に合格。精神保健福祉士の資格も得た。2年間、福島県の若者自立相談員、就職サポートセンター特別職業相談員を務め、その後「採用と教育」を設立。組織活性化アドバイザーとして、多くの医療・福祉施設の活性化に携わっている。

◆URL <http://www.saiyoutokyouku.com/>